

平成 30 年(2018 年) 9 月 25 日

長野県病虫害防除所

病虫害発生予察特殊報 第 3 号

害虫名：トチュウウスクモヨトウ
学名：*Protegira songi* (Chen&Zhang)
作物名：とちゅう（杜仲）

1 発生経過

平成 30 年 6 月に、南信地域で栽培されているとちゅうにおいて、チョウ目の幼虫によると見られる食害が確認された。この幼虫を採取してとちゅう葉で飼育し、羽化した成虫について飯田市美術博物館学芸員の四方圭一郎氏に同定を依頼したところ、トチュウウスクモヨトウ (*Protegira songi* (Chen&Zhang)) であることが判明した。当該種は国内では平成 29 年 4 月に県内において成虫が採取されたが、食性は不明であった。

2 形態

成虫は黒褐色の羽を持ち、羽を広げた大きさは約 3 cm (図 1)。幼虫は、若齢のうちは緑色で背中に縦の白線が 2 本目立ち (図 2)、中老齢になると茶褐色になる (図 3)。幼虫の大きさは一般的なヨトウガ類とほぼ同様である。

3 生態

中国の湖南省で発見され(1995 年頃)、その後、韓国でも発生が確認された (2011 年)。幼虫が食べるのはとちゅうの葉だけとされる。

国内では平成 29 年 4 月に県内において成虫が採取された。幼虫は葉を糸で簡単につづった隙間に生息し、葉を食害する (図 4)。年 3 回程度の発生と推測されている。

4 被害及び寄主植物

本種は、とちゅうの葉のみを食べる単食性とされる。密度が高まると葉を食い尽くすこともある。とちゅうの原産地は中国大陸中西部、ガリア目トチュウ科の 1 科 1 属 1 種で近縁種がなく、国内では薬用植物として栽培されている。

5 防除対策

本種に対する登録農薬はないため、以下のような耕種的手法による防除対策を実施する。

- (1) 幼虫の発生初期に食害葉を見つけ、幼虫を駆除する。
- (2) 防虫網を木全体にかけ、成虫の飛来・産卵を防ぐ。



図1 トチュウウスクモヨトウ成虫



図2 若齢幼虫



図3 老齢幼虫



図4 とちゅうにおける食害の様子

長野県病虫害防除所 中南信担当
TEL : 0263-53-5642 (直通)
FAX : 0263-54-4508
E-Mail bojo-y@pref.nagano.lg.jp